賢く　優しく　逞しく

２月号・令和５年２月２日発行

本校ＵＲＬ　http://musashimurayama.ed.jp/mmced5c/　武蔵村山市立第五中学校

十分やりきる

校　長　榎戸　千代子

早いもので、今年も一か月が過ぎました。３年生の受験も本番を迎えています。

２月４日（土）は、二十四節気の一つにあたる「立春」です。この「立春」は、冬至から春分までの中間地点として定められました。二十四節気では、「立春」が一番目にあたるそうです。まだ肌寒い時期ではありますが、「立春」は「春の始まり」、「一年の始まり」という意味があります。

暦の上では春の訪れとなります。新しいことを始めるスタートの日と言えます。学校では少しずつ卒業、進級に向けて準備を始めています。

さて、すでに報道されましたが、パラリンピックの車いすテニス男子で４個の金メダルを獲得した国枝慎吾選手が、現役引退を表明しました。

国枝選手は、９歳の時に脊髄腫瘍で車いす生活となり、１１歳でテニスを始めました。パラリンピックには、男子シングルスで２００４（平成１６）年のアテネ大会、２００８（平成２０）年の北京大会、２０１６（平成２８）年のロンドン大会で優勝し、日本選手団の主将を務めた２０２１（令和３）年の東京大会も世界一に輝きました。また、昨年のウインブルドン選手権でも優勝し、四大大会制覇とパラリンピック金メダルを合わせた「生涯ゴールデンスラム」を達成しました。

そんな高いレベルを常に維持し続けた国枝選手でしたが、時にはプレーに迷ったり、不安で眠れなかったり、故障で苦しんだりしたときがありました。こういうとき、国枝選手は「俺は最強だ！」と呪文のように唱え、その言葉を書いたテープをラケットに貼り、自分を奮い立たせてきました。

「もっと多くの人に知ってほしい」という思いで車いすテニスを続けてきた国枝選手ですが、彼の活躍は、障害者によるパラスポーツ全体の認知度も高めました。国枝選手の姿を見てあこがれ、パラスポーツの競技を始めた若い選手も多く、競技人口も増えました。パラスポーツ競技の魅力を伝え続けた彼の功績は大きいものがあります。

「もう十分やりきったという感情が高まり、決意した次第です。」という国枝選手の言葉に、競技生活が満ち足りたものであったことを感じます。生徒の皆さんも「十分やりきった」と思えるように、目の前にあることに精一杯取り組み、充実感、達成感を味わってほしいと思います。

ところで、１年生のスキー移動教室が１月２９日（日）から１月３１日（火）に実施され、無事終了しました。今回の１年生のスローガンは、「一致団結～ルールを守って Enjoy!スキー教室～」でした。スキーは初めてという人も多かったのですが、急斜面を下る怖さや筋肉痛を克服し、どの生徒も格段に技術が向上しました。閉校式でインストラクターの先生から「転んでもいい。自分の力で起き上がって、また滑り出せたら次の新しい景色が見えてくる。あきらめないで何回でも起き上がって挑戦してほしい。」というお話がありました。スキーに限らず私たちの生き方にも通じるお話で印象に残りました。この３日間で子供たちは、「十分やりきった」という満足な表情がたくさん見られました。

さて昨年度から延期されていた２年生のスキー移動教室は２月５日（日）から７日（火）に実施されます。２年生のスローガンは「Best Ski～集団行動を心がけよう～」です。初めての宿泊行事ですが、修学旅行につながる大事な学年行事となります。充実感、達成感のある３日間を過ごしてもらいたいと思います。

明るいあいさつ・みんなの笑顔　第五中学校区（二小・八小・十小・五中）

第五中学校体罰防止標語：　チーム五中で　心に響く　生徒指導